

甲 第 号

清水卓斗 学位請求論文

審 查 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	國安弘基
論文審査担当者	委員	教授	田中利洋
	委員(指導教員)	教授	藤本清秀

主論文

Molecular mechanism of formation and destruction of pseudo-capsule in clear cell renal cell carcinoma

淡明腎細胞癌における偽被膜の形成および破綻の分子学的機序

Takuto Shimizu, Makito Miyake, Kota Iida, Sayuri Onishi, Tomomi Fujii, Yusuke

Iemura, Kazuki Ichikawa, Chihiro Omori, Fumisato Maesaka, Mitsuru Tomizawa,

Tatsuki Miyamoto, Nobumichi Tanaka, Kiyohide Fujimoto

Oncology Letters. 2024 Mar 22;27(5):225.

論文審査の要旨

淡明型腎細胞癌では偽被膜の形成が特徴的であるが、その形成機序や偽被膜への浸潤の意義は未だ明らかではない。本研究では、169 例の淡明型腎細胞癌症例とラット腎癌モデルを用いて、偽被膜への癌浸潤の意義を検討した。偽被膜浸潤は、病期の進行と相関しており、独立した予後因子であった。ラット腎癌では、偽被膜浸潤と MMP7 などの遺伝子発現亢進が相関していた。

公聴会では、偽被膜浸潤が予後に影響を与える機序や、この知見の臨床応用に関する質問がなされ、偽被膜浸潤が MMP7 を介する 4 型コラーゲンの分解によるもので、同様の機序により脈管侵襲が促進され遠隔転移を招くこと、並びに、MRI などによる画像診断により偽被膜浸潤を術前に評価することでよりの確な切除手技の選択を可能にするなど、的確な回答が得られた。

本研究は、腎細胞癌の偽被膜浸潤の評価が悪性度診断への臨床的有用性が高いことを示しており、今後手術手技の選択や腎癌取り扱い規約の新たな評価因子への組み込みなど、臨床的な応用が期待される重要な研究である。

参 考 論 文

1. Impact of Complete Surgical Resection of Metastatic Lesions in Patients with Advanced Renal Cell Carcinoma in the Era of Tyrosine Kinase Inhibitors and Immune Checkpoint Inhibitors.
Shimizu T, Miyake M, Nishimura N, Yoshida T, Itami Y, Tachibana A, Omori C, Oda Y, Kohashi M, Tomizawa M, Onishi K, Hori S, Morizawa Y, Dotoh D, Nakai Y, Torimoto K, Tanaka N, Fujimoto K. *Cancers (Basel)*. 2024 Feb 19;16(4):841.
2. Clinical Significance of Tumor Size, Pathological Invasion Sites Including Urinary Collecting System and Clinically Detected Renal Vein Thrombus as Predictors for Recurrence in pT3a Localized Renal Cell Carcinoma.
Shimizu T, Miyake M, Hori S, et al. *Diagnostics (Basel)*. 2020;10(3):154.
Published 2020 Mar 12. doi:10.3390/diagnostics10030154

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに泌尿器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和6年6月11日

学位審査委員長

分子腫瘍病理学

教授 國安弘基

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

教授 田中利洋

学位審査委員(指導教員)

泌尿器病態制御医学

教授 藤本清秀